

やわたはま

2024
1月号
Vol.107

社協だより

[発行] 社会福祉法人 八幡浜市社会福祉協議会

八幡浜市松柏乙1101番地 八幡浜市保健福祉総合センター2階

TEL 0894-23-2940 FAX 0894-23-0506



この社協だよりの発行には、
赤い羽根共同募金の配分金が
財源の一部として活用されています。

謹賀新年



ふれあい・いきいきサロン
「神越わくわくサロン」の皆さん

三間町・中山池自然公園にて

新年、明けましておめでとうございま
す。地域住民の皆さまにおかれましては、
輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申
し上げます。旧年中は、社会福祉協議会
の事業推進につきまして、多大なるご支
援ご協力を賜り、誠にありがとうございました。

新型コロナウイルス感染症のパンデ
ミックは、5類感染症へ移行し、社会生
活もコロナ禍以前の様相を取り戻しつつ
あります。渦中には人とのつながりの希
薄化が余儀なくされる一方で、その大切
さにも改めて気づくことができました。
物価高騰による暮らしへの影響もある中、
本年も一人ひとりの声を受け止めながら、
地域福祉の推進に努めて参る所存です。
この新しい年が、より佳き年になるよ
う心より祈念致します。本年も変わらぬ
ご支援ご厚誼を賜りますよう、よろしく
お願い申し上げます。



八幡浜市社会福祉協議会
会長 清家 俊蔵



日 時 令和6年1月27日(土)
10時00分～12時00分
場 所 八幡浜市文化会館 ゆめみかん 大ホール
内 容 式典、赤い羽根共同募金のとりくみ報告
※どなたでもご参加いただけます。

人口減少・少子高齢化が進み、地域におけるつながりが希薄化する中、『8050問題』『ダブルケア』『ヤングケアラー』などの顕在化により、社会的孤立や生活困窮の課題が深刻化しています。一方、地域住民のみなさまは、コロナに負けず、住民同士の見守りあいや支え合い活動、住民同士が出会い福祉や暮らしを語り合う場を続け、人と人とのつながりを感じる地域づくりを実践してきました。

国では、地域共生社会の実現に向けた施策が本格化する中、『重層的支援体制整備事業』『成年後見制度の利用促進』への取り組みや、福祉のみならず、医療、労働、農業、交通などの生活関連分野との連携など、地域福祉を『まちづくり』の観点で進める重要性が高まっています。

また、八幡浜市内の福祉関係者をはじめ、多様な地域づくりの担い手が地域福祉に参画することは、SDGsが目標として掲げている『貧困をなくそう』『すべての人に健康と福祉を』『住み続けるまちづくりを』などの実現にもつながります。

本大会においても、あらためて『つながり』の大切さを確認しつつ、長年にわたり八幡浜市で社会福祉の発展に功績を残された方々の顕彰を行うことを通じて、社会福祉のさらなる充実を目指すことを目的に、開催します。

皆様のお越しをお待ちしております。

八幡浜市社会福祉大会を開催します

長年の地域活動に感謝して

愛媛県社会福祉大会

令和5年10月11日（水）愛媛県

県民文化会館において、第71回愛

媛県社会福祉大会が開催されました。

長年にわたり愛媛県の社会福

祉の発展にご尽力され、多大な功績を残されている八幡浜市民の方々が表彰されました。

【愛媛県知事表彰】

○民生・児童委員

濱本陽一さん（江戸岡）

【愛媛県社会福祉協議会会长表彰】

○民生委員・児童委員功劳

道岡榮子さん（日土）

○社会福祉施設功劳

二宮美映さん（児童養護施設

八幡浜少年ホーム）

○優良ボランティア（個人）

矢野律子さん（八幡浜市・八幡浜保内赤十字奉仕団）

○優良ボランティア（団体）

八幡浜市ボランティア協議会

【愛媛県共同募金会会長表彰】

○奉仕功労者

稻田和子さん（真穴）
徳島 守さん（白浜）



矢野律子さん

【愛媛県民生児童委員協議会会长表彰】

○永年勤続

木下敬之さん（白浜）

当日は、受賞者を含め、地域福祉を推進している八幡浜市民60名の皆さんと会場へ向かいました。表彰式では優良ボランティア（個人）を代表して矢野律子さんが表彰を受け取りました。

皆さま、おめでとうございます。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

また、会場ではSELFP製品（愛媛県内の障がい者就労支援事業所等で障がいのある方が作った製品）の販売イベントも同時開催されており、八幡浜市からは浜つ子作業所さんが出展されていました。同じ市内の方々の活躍を見て地域活動の重要性を改めて実感しました。

第35回福祉のつどい 3年ぶりに新町ドームで開催しました



『福祉のつどい』は、平成元年から続いているイベントです。新町ドームなどを会場に、市内のボランティア団体を中心とした様々な方が集う大切な機会となっていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、ここ数年、従来とは違う形で開催していました。



新町商店街
アーケードの様子

見事な秋晴れの中、『出会いふれあい 笑顔と感謝♪ボランティアの輪 再発見！』のテーマ通り、多くのボランティア団体さんや地域の方々と交流できた一日となりました。

また、この日は『赤い羽根共同募金運動』の初日。たくさんの方が募金活動に協力してくださったことで、赤い羽根や風船が街を彩り、華やかなスタートを切ることができました。

しかし、令和5年5月には新型コロナウイルス感染症の法上の位置付けが変更となつたため、令和5年10月1日（日）、「第35回福祉のつどい」は久しぶりに新町ドームで開催しました。地域一丸となつて町を元気づけると共に、活動の広がりや発展していく機会にすることを目的としました。

会場には、点字や手話、車いすなどの体験ブース、消防署や警察署の展示ブースが立ち並び、多くの賑わいを見せていました。その他、食品や手作り品の販売ブースもあり、両手いっぱいに買い物袋を提げた来場者の姿がありました。



一人人形劇
「ネズミのすもう」

各団体によるステージプログラム
体験、販売ブースと並行して、各団体によるステージ発表を行いました。地域で活動しているコーラス団体による合唱やボランティア団体による大型紙芝居、手話サークルと高校生がコラボレーションで手話コーラスを披露するなど、様々な団体がそれぞれの方法で会場を盛り上げました。

たくさんの協力 第35回福祉のつどいは、多くの協力を得て当日を迎えた。協力は当日のみならず、前日や前々日の準備、広報活動や物品の貸し出し協力など様々な形があり、数えきれないほど多くの方々が携わってくださいました。ご来場、ご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。



消防署の方々による看板設置



前々日準備

生活支援コーディネーターだより ココで安心して暮らし続けるために大切なことは

バーバラカフェ始動

お気軽に、ホツとしにおいでませ

令和4年度のアクティブボランティア養成講座では、主に松蔭地区・江戸岡地区の方に声をかけ、

地域のこと、地域で暮らし続けることについて考えていきました。

その際に行つたグループワークで、「気軽に立ち寄れる居場所が欲しい。バーバラカフェなんて名前でどうだろう」という話題があがつてきました。

養成講座終了後、受講者有志に声をかけ、『バーバラカフェプロジェクト』と称して、話し合いの場を持ちました。どんな居場所にするか、場所や時間帯は、ボランティアスタッフはどうするかなど、一つずつ検討していきました。大きな議題となつて開催場所については、千代田町のスーパーにてや広場のご協力を得て、フリースペースをお借りすることとなりました。

令和5年10月3日（火）に、1回目のバーバラカフェを開催しました。ボランティアスタッフのお接待がありながら、椅子に腰かけ

て、時間の許す限りおしゃべりを楽しんでいました。11月の開催時にも、多くの方にお越しいただきました。

今後も主に月1回ペースで開催

する予定です。ボランティアスタッフの皆さん、コーヒーやお茶、ちょっととしたお菓子を準備しています。参加費として100円をいただいているが、どなたでも立ち寄つていただけます。

1月は16日（火）10時～14時開催予定です。お気軽に越しください。



和気あいあいと過ごされています

2.5層の話し合い
医療・介護等の視点から地域を考える
地域包括ケアシステムとは、介護が必要な状態になつても住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制の構築を目指したもの

です。

生活支援コーディネーターとして協議体や既存の地域活動組織の方々と共に支え合える地域を目指して取り組んできましたが、医療・介護等のサービスと上手く関わり合うことも安心した暮らしに欠かせません。今回の話し合いでは、主に医療・介護に関わる専門職と、八幡浜市内の各地域で見守りや支え合い活動に取り組んでいるボランティアの方々をお招きして、地域ニーズの把握と情報共有を行いました。

各分野で人手不足が取り沙汰される中、医療・介護においても人材の確保に課題があります。介護医療職は高齢の方々がその取り組みを支えています。一方地域の支え合いボランティアは、気にかかる方を適度な距離感で気にかけ、見守り続けています。

話し合いでは、支援の中で感じる悩みを共有しました。服薬管

理に課題がある方に地域のボランティアとしてどう関わることができるか、議論しました。また、自身の整容に关心が低い方との関わり方に悩むケースがあがりました。人それぞれの価値観や幸せがある中で、支援者も相談できる人を増やしながら、価値観を尊重する支援を行う大きさを共有しました。

八幡浜市も全国の市町村と同様に、人口の減少が急速に進んでいます。高齢者・障がい者・子どもなど、カテゴリーを分けて支え合うことが難しくなるかもしれない中で、共生型の仕組みが必要になるだろうとの意見もありました。



八幡浜の介護と医療と暮らしを話す

福祉教育

人とのつながりとふれあいから、福祉を学ぶ

福祉教育で伝える

「ふだんの・くらしの・しあわせ」

八幡浜市社協では、市内外のボランティアグループや関係者のご協力を得ながら、主に市内の小中学校を訪問し、体験や交流を交えた福祉に関する授業を開催しています。令和5年度も多くの学校から依頼いただきました。

授業では、福祉とは『ふだんのくらしの・しあわせ』と伝えて

います。どんな方でも日々の暮らしは豊かで、幸福であるためにも、障がいなどについて理解し、考えるきっかけ作りとなればと考えています。

『ボランティア』『地域』への

関心を育む

松柏中学校では、総合的な学習の時間にいくつかのコースから関心の高い分野を選択し、1学期から2学期にかけて学びを深めきました。その中の1つ『ボランティアコース』より依頼をいただき、福祉やボランティアについての授業を行つてきました。



もち米をつくところからおはぎ作り



車いすテニスプレイヤー清水選手と



市内各所で街頭募金活動

した。

1学期の初めには、千丈地区のボランティアさんとの交流も組みました。第二層協議体『下ごしらえの会』の皆さんにご協力いただき、ご自身のボランティア経験や今地域で取り組んでいることをお話しいただきました。交流の中でお互いの想いにふれ、ボランティアを身近に感じてもらうことができました。

その流れを受けて、2学期には一緒におはぎ作りを行いました。なかなか自分で作つて食べることのなくなつたおはぎ。優しく丁寧に、そして手早く調理方法

パラアスリートの想いと競技のすごさ・面白さにふれる
パラスポーツについても、数回にかけて学習しました。

松山市を拠点に車いすテニスプレイヤーとして活動している清水克起さんをお招きした際には、競技やご自身の選手活動についてお話をいただき、競技用の車いすに乗つてみたり、ラリーをしてみたりしました。実際に操作してみると、車いすでコ

を教えてもらいながら、一つひとつ丁寧に作業しました。出来上がつたものを一緒に食べながら、故郷のことを語り合いました。なお、もち米はフードバンク事業へ寄付いただいた物を活用させていただきました。

ト内を自由自在に移動しながらテニスをするこの難しさを感じることができました。

寄付という形で想いや意思をつなぐ寄付について考える時間も持ちました。八幡浜市社協で実施している活動を例に挙げながら、物品やボランティアの力など、金銭以外の寄付の形もあること、寄付を通じて誰かの想いや活動を応援することができ、支え合いの一つの形であることを確認しました。

活動の最後には、市内のスーパーにもご協力をいただき、赤い羽根共同募金の街頭募金活動にも参加。多くの人の出会いとふれあいから、福祉やボランティアの心を学ぶことができました。

生活(後見)支援員として活動しませんか? 「よりよく生きる」 を支援する

日 時 令和6年2月17日(土)・18日(日)
17日 10:00~16:20 18日 10:00~15:45

会 場 八幡浜商工会館 3階 研修室
八幡浜市北浜1丁目3番25号



予約フォーム

この研修会では、地域で暮らす高齢者や障がいを持つ当事者が住み慣れた地域で安心して暮らすためのお手伝いをする「生活(後見)支援員」を養成し、支援員としての知識や心構えについて学びます。



新・カリキュラム

- ・人権を学ぶ
 - ・「認知症」や介護保険制度を学ぶ
 - ・「障がい」や障害福祉制度を学ぶ
 - ・地域で暮らすこと、支え合いを学ぶ
 - ・支援員活動を学ぶ
- ※詳しいカリキュラムは下記ホームページまで
※内容は変更する場合があります。

○講座を修了すると○

八幡浜市社会福祉協議会の「生活(後見)支援員」として活動することができます。

支援員として、当事者への定期訪問や生活費等のお届け、書類の確認などを通じて地域生活を安心して送っていただくためのお手伝いを行います。

【お申し込み・お問い合わせ】 社会福祉法人 八幡浜市社会福祉協議会
TEL 0894-23-2940 FAX 0894-23-0506
ホームページ : <https://yawatahamashi-syakyo.jp/wp/>

生活福祉資金貸付事業

教育支援資金のご案内

就学・進学に必要な費用にお困りの方へ



まずは、他の貸付制度もご確認ください。

	貸付制度	相談窓口
高校への進学	愛媛県奨学金資金	在籍する学校
大学等への進学	日本学生支援機構奨学金 母子父子寡婦福祉資金	在籍する学校 八幡浜市役所 子育て支援課

令和2年度より、新しい修学支援制度が始まっています
(減免・給付型)。

詳しくは、[日本学生支援機構ホームページ](#)をご覧ください。

教育支援資金

※他の奨学金制度との併用が可能です。

就学支度費 (入学に際し必要な費用)	貸付限度額	50万円以内
	貸付期間	入学時に一括貸付(※入学後は利用できません)
	据置期間	卒業後6ヶ月以内
	返済期間	据置期間経過後12年以内
	貸付利子	無利子
	使途内容の例	入学金等入学時に学校へ納入する経費 制服、靴、体操着など入学時に一括して購入するもの

教育支援費 (在学中に必要な費用)	貸付限度額	高等学校 月額35,000円以内(専修学校高等課程含む) 高等専門学校 月額60,000円以内 短期大学 月額60,000円以内(専修学校の専門課程含む) 大学 月額65,000円以内 ※特に必要と認められ、かつ将来計画が明確に定められる場合は上記金額の1.5倍まで増額可能。
	貸付期間	在学中
	据置期間	卒業後6ヶ月以内
	返済期間	据置期間経過後12年以内
	貸付利子	無利子
	使途内容の例	授業料、学校納入費用、参考書、学用品、交通費

生活のこと、家計のこと、仕事のことなど、生活のしづらさを感じた時、
まずはご連絡ください。電話、訪問、来所など、ご希望の方法でお話を伺います。

お問合せ先：八幡浜市社会福祉協議会 地域福祉課 TEL：0894-23-2940

(生活にお困りの方へ)

無料相談会

収入が減って生活が苦しい

収入が減って家賃が払えない

借金の返済ができなくて困っている

公共料金が払えず困っている

成年後見制度について知りたい

仕事が続かない

仕事を辞めてしまって、困っている

年金がもらえるのか知りたい

相続について相談したい

介護・認知症について知りたい



**弁護士、司法書士、行政書士、社会保険労務士、
社会福祉士、社協相談員がお応えします！**

日 時 令和6年1月21日(日)
13:00~16:00

会 場 八幡浜市保健福祉総合センター4階
八幡浜市松柏乙1101番地



予約フォーム

**ご予約・問い合わせ先**

八幡浜市社会福祉協議会 TEL : 0894-23-2940
Mail : info@yawatahamashi-syakyo.jp FAX : 0894-23-0506